



新刀剣博物館(左上)と旧安田庭園の模型 (設計/横総合計画事務所)

待たれる新刀剣博物館のオープン 業界の問題解決に向けて日刀保と協議

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



平成二十四年四月に公益財団法人として新たなスタートを切った日本美術刀剣保存協会小野裕会長。以下、日刀保は「和」の精神の下に公益目的事業の推進と刀剣文化のさらなる普及のため、積極的に関係機関、業界各

団体との連携を深めています。設立から六十七年、絶えず変革が求められ、戦後の日本再生とともに歩んできた日刀保ですが、現在、刀剣博物館の移転という最大の事業に臨んでいます。そのように慌ただしい最中に

もかかわらず、当組合との会話の機会を二月二十七日に持つていただきました。日刀保より小野会長・柴原勤専務理事・福本富雄常務理事が出席され、組合からは深海理事長・飯田前理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事と筆者が出席しました。

初めに小野会長より、移転に関する進行状況が報告されました。前回の会合では、移転に関する財務収支はかなりの寄付金を要することでしたが、今回の報告では当初の設計を変更することなく、日刀保の基本財産等で移転が行えるよう、予算案を大きく見直したということでした。

今後、寄付金を広く受けてはいきますが、前回の内容ほどの移転費用の収支差がなくなりました。この案件は組合としても無縁ではなく、大変心配していただけに、まずは安堵しました。新刀剣博物館の施工には既に

戸田建設が選定されており、平成二十八年三月に着工し、二十九年春に完成する予定だそうです。現在は埋蔵文化財の調査が進められており、間もなく終了するとの報告もいただきました。開館については詳しく言及されませんが、建物の完成後おおよそ一年を要するのではないかと推測します。

新刀剣博物館は隅田川沿いに位置するため、河川が氾濫した場合の水害対策について伺いましたところ、江戸時代より隅田川の水を引く潮入回遊庭園となっており(現在は地下貯水槽よりポンプを使用)、もし園内に隅田川の水が流入してきても園外へ自然に排水できるような構造になっているようです。

江戸時代、本庄氏によって大名庭園に築造され、明治に入り安田財閥が維持してきた名園を、今後は刀剣博物館を訪れる世界の人が楽しめることは、大変喜ばしい限りです。

墨田区より借地するため、日刀保が地代を支払うが、一方、三階建ての一階部分は、墨田区民の憩いの広場として有意義に活用される

組合員の皆さまには、日ごろより組合活動に対して多大なるご協力と深いご理解をいただき誠にありがとうございます。さて、第二十八回通常総会

第28回通常総会では役員改選があります多くの組合員のご出席をお願いします

六年度会計報告承認の件、監査報告 (第二号議案) 平成二十七年

日刀保の主要業務である刀剣審査の受付物件数がここ数年大幅に増加傾向にあり、業務量が

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商
やしま
齋藤雅稔・隆久・隆洋
刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円 (郵便切手可)
〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式
柳匠堂
柳村宗寿
岡山市北区平和町二一八
TEL 〇八六・二二二・二二二九
TEL 〇八六・二二二・二二二九
工房 岡山市北区磨屋町七二二
TEL 〇八六・二二二・二二二九
FAX 〇八六・二二二・二二二九

町田久雄
三峯美術店
刀剣古美術
埼玉県秩父市野坂町一六六一
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四・二二二・三〇六七
FAX 〇四九四・二二二・三〇六七

大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二一七一
TEL 〇六一六・六三一・二二二〇
TEL 〇六一六・六三一・二二二〇
FAX 〇六一六・六四四・五四六四

刀 剣 界

刀剣入手後、銃砲刀剣類所持等取締法により名義変更が義務づけられているものの、従来、刀剣所有者の方々にはあまり重要視される傾向にはありませんでした。当組合は警察庁認可の団体でもあり、警察行政に協力するために、組合員・愛刀家の方たちへこの数年、さまざまな機会を捉え名義変更の重要性を訴えてきました。

その結果、東京都の場合、かつて四千振程度であった名義変更申請が、ここ数年は六千振以上と飛躍的に増えました。おそらく他の道府県でも同じ傾向が見られることでしょう。

しかし、登録証を交付している教育委員会の誤記のために、まま善意の申請者に不都合が生

じています。

新たに所有した旨を届け出る、寸法違いや銘の脱字など、台帳と相違するとの理由で名義変更ができないばかりか、銃刀法違反の犯罪者になりかねない、交付した教育委員会から指摘される現状です。公安委員会まで巻き込み、事件性がないにもかかわらず多くの時間を費やし、その後新規登録として扱われることもあります。

このような問題を何の対処もせず放置しておけば、業界にとって登録制度は負の遺産となりかねません。

しかし、過去の登録証記載ミス問題を、当組合だけで折衝しようとしても解決はきわめて困難です。そこで今後、行政側

問題解決の窓口を設けてもらえるように働きかけるため、日刀保にも協力をいただきたいとお願いました。小野会長からは、そのような問題は、愛刀家の方々が安心して刀剣類を所持するには必要不可欠なことであり、今後大いに協力していきたいとの回答をいただきました。

今回の日刀保との合点は、多くの業界の声を聞き、新刀剣博物館にその声を生かしていることとする、現執行部の方々の意気込みを伺う有意義な機会となりました。

刀剣業界発展のための、また未来へ伝統文化を継承していくにふさわしい、新刀剣博物館の開館が待ち遠しい限りです。

(嶋田伸夫)

読者だより

刀は美しい

外山 潤(高一)

僕が刀を見て思ったことは二つあります。一つ目は、刀は奥が深いということです。

刀は、作られた場所や時代によって地鉄の色が変わります。僕が初めて刀を見たとき、いろいろな刀を見てもらったのですが、その中でも違いはたくさん見つかることができました。

例えば、片山一文字という刀は南北朝時代以前に備前で作られたので、地鉄が青いということに気がつきました。

また、平造りや長巻造りなどの作り方によっても刃文の模様が違ってきます。

刀を見せてくれた方が、「光を当てて見てご覧」とおっしゃって、ライトを刀に当ててくれます。

た。さまざまな角度から光を当てると、いろいろな模様や波のようになり浮かんできました。三日月の模様や、繊細な化粧研ぎが見ええました。僕は時間を忘れて見入っていました。

また、戦うためだけでなく、武士の象徴として作られた刀は、あまり研がれていないのか、厚みがあるのがわかりました。さらに、所持者が変わるごとに目釘穴の位置も変わるので、有名な刀工が作った刀でも銘の部分が消えてしまうことがあると教えてもらって、そんなこともあるのかと驚きました。

僕は、刀はとても奥が深いんだなと思いました。

二つ目は、とても美しいということです。

刀身だけでなく、鞘や鐔に施さ

れる装飾がとても精密で神秘的だなどと思いました。鮫皮や金や漆で作られた鞘には職人のこだわりがあり、とてもきらびやかだと思いました。

僕は、刀はどのみても奥が深いんだなと思いました。刀に出会えて良かったと思います。

【付言】刀とともに

外山潤くんは現在、高校一年生です。私の父が日ごろお世話になっている主治医のご子息で、剣道部に在籍していた当時、三年べらい前が日本刀を手にした最初だと思えます。お顔は興福寺の阿修羅さまさながら(笑)、真剣なまなこで集中力に驚きました。

「遺産」という言葉があふれています。今日、人は先に進むことばかり考え、あらためて振り返る時間を持つこととせません。日常の雑事をいったん脇に置いて、「時間を止める」そこには心の豊かさがあふれています。先人の尊き思い、先人の心を心とする、そんな機会に少しでも触れるべく、これからは潤くんも日本刀を鑑

第10回「アートフェア東京」開催さる

去る3月20日(金)～22日(日)の3日間、東京国際フォーラム展示ホール(東京有楽町)で「アートフェア東京」が開催されました。

10年を迎えた同展には、国内外より140にも及ぶギャラリーや企業などが参加。時代やジャンルを超えた質の高い美術作品に触れることができ、海外のアート見本市に似ていると言えるでしょう。古美術、工芸から近代日本画・洋画、現代アートまでさまざまな作品が集まり、現物はもちろん現代作家と対面し、購入ができる一方、協賛企業の紹介スペースもあります。毎年趣向を凝らしたブースデザイン、品ぞろえに継続ファンも根付き、本年は過去最高の約5万5,000人の来場があったそうです。

発足当初はモダンアートが多かったのですが、近年幅広い分野へ拡大傾向にあるようです。会場で伊藤温氏(伊藤美術)の出店を発見。刀剣武器では唯一のブースでした。「展示時間も長く、準備や撤収と大変なことも多いけれど、普段見たくても見られないと思っている刀剣に興味ある方々が、身近に感じてもらえたようで嬉しく思っています」とお話を頂きました。今後の刀剣業界との関わりが注目されます。(伊波賢一)



第六回「新作日本刀・研磨・外装 刀職技術展覧会」経産省・文化庁などが後援し、鉄の展示館で

第六回「新作日本刀・研磨・外装 刀職技術展覧会」は、主催/公益財団法人日本刀文化振興協会・坂城町の展示館・坂城町、後援/経済産業省・文化庁・長野県・坂城町教育委員会・SBC信越放送・TSBテレビ信州・ABN長野朝日放送・NBS長野放送・上田ケーブルテレビジョン、協力/全日本刀匠会により、五月三十日(出)八月二日(日)、昨年同様坂城町の展示館にて開催されます。

長野県には五件の国宝指定建造物がありますが、このうち二つをこの周辺で見ることが出来ます。一つは鎌倉時代後期に創建された信州最古の禅寺・安楽寺の八角三重塔。ここは「信州の鎌倉」と呼ばれる別所温泉です。もう一つはすぐ近くの青木村にある大法寺三重塔。その美しさで「見返りの塔」とも呼ばれています。

観光とも併せて鉄の展示館を訪れてはいかがでしょうか。審査会は四月二十二日から三日間、研磨・作刀・外装の順に、経済産業省と文化庁の担当官の立ち会いの下、二十一人の審査員(うち六名は外部審査員)により厳正に行われました。

昨年からは地方開催で出品される方の負担も多くなりましたが、出品総数は昨年よりも増え、皆さまの期待の大きさを感しました。研磨部門では出品数が増えた上に、まれに見る数の名品があらま

した。名品をお借りできることも研師の実力です。それもあって、何度も投票が繰り返されました。その結果、名刀(主に古名刀)の研究こそなしの良し悪しが明暗を分けることになりました。勇気を出して名刀に挑んだことには大変価値があり、真摯に向き合えば大きな飛躍が期待できます。

作刀部門は昨年同様の出品数でしたが、初出品以来、高い評価を受け続けている若手が初めてトップに立ち、新しい風が吹き始めていると感じました。

外装の部門、刀装具・白銀・拵・柄巻・鞘塗り・白鞘の中には刀装具が昨年より多く、他は例

年並み。白鞘・刀装具では連続して出品している方の作品に研究の成果が現れ、技術水準の高い仕上がりになっていました。また、白銀・拵・柄巻・鞘塗りでは各部門基本に忠実な作品に仕上がっていました。

出品することには技術の伝承と維持という大きな目標があります。次回も研究の成果を期待します。今年良い成績を獲った方々は来年以後も続かなければ、本当の実力とは認められません。良い仕事を会得するための努力は一生続くものです。また本意な成績に終わった方々も、次回躍進を目指してご精進願いたいと思います。

昨秋、鉄の展示館の入り口に、刀剣界の方々の熱い思いとご尽力により、立派な源清磨の記念碑が建立されました。

清磨は当時、今のように有名ではなく、水心子や固山の一門より格下に見られていたが、特に戦後になり熱烈な愛好家や刀剣商、また地元の方々の熱意によって脚光を浴びるようになり、幕末を代表する名工となりました。

今年三月、八十九歳で他界した上方落語の巨匠桂米朝は「話す方も勉強が必要だが、聞く方にも責任がある」と話していました。そ



鉄の展示館と源清磨記念碑

組合こよみ

(平成27年3~4月)

- 3月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第22号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・飯田慶雄氏・大平将広氏・松本義行氏・土子民夫氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加49名、出来高9,532,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第23号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大西芳生氏・大平氏・土肥富康氏・松本氏・土子氏
- 4月3日 刀剣鑑定のため、清水専務理事・服部常務理事が横浜地方裁判所に出張
- 7日 東京美術倶楽部にて開催された全国美術商連合会に伊波常務理事が出席
- 10日 刀剣鑑定のため、深海理事長が兵庫警察本部に出張
- 14日 東京美術倶楽部にて開催された全国美術商連合会に深海理事長が出席
- 16日 東京美術倶楽部にて平成26年度会計監査を笠原・佐藤両監事が行う。清水専務理事・服部常務理事・事務局濱崎道代氏が出席
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加44名、出来高7,160,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。理事15名、監事2名が出席
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第23号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大平氏・瀬下昌彦氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 21日 刀剣鑑定のため、服部常務理事・瀬下昌彦氏が兵庫警察本部に出張

関連行事

- 日本刀に触れてみよう！
古刀から現代刀の名刀を手に持ち、ゆっくり鑑賞しましょう。
開催日：6月14日(日)午前10時30分~正午
7月8日(水)午後7時30分~9時
会場：鉄の展示館隣接コミュニティセンター
定員：先着30名
対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)
参加費：500円
- 居合道演武と公開古式鍛錬
小宮山克巳氏(夢想神伝流居合道教士7段)と長野県剣道連盟上田支部の皆さんによる居合道の演武をご覧いただき、その後、宮入鍛刀道場において古式鍛錬を公開します。
開催日：7月18日(土)午前9時30分~正午
居合道会場：鉄の展示館隣接コミュニティセンター
鍛錬会場：宮入鍛刀道場
※見学無料(ただし、鉄の展示館への入館が必要)
- 「刀職実技研修会」一般公開
日本刀製作に関わるさまざまな伝統技術(刀身製作・研磨・拵下地・金具製作・柄巻き)の専門的技術向上を図るための研修会を一般に公開します。
開催日：7月24日(金)~26日(日)午前10時~午後4時(最終日は午後3時まで)
会場：鉄の展示館隣接コミュニティセンター
※見学無料(ただし、鉄の展示館への入館が必要)
- 小刀を作ろう！
3日間かけて本物の小刀を作ります。
開催日：7月24日(金)~26日(日)午前10時~午後4時(最終日は午後3時まで)
会場：宮入鍛刀道場
定員：10名
対象：高校生以上
参加費：20,000円
申し込み：鉄の展示館(☎0268-82-1128)。定員になり次第締め切り
- 女子限定!! 日本刀に触れてみよう「ピギナー編」
本物の日本刀に触れてみませんか? 初心者大歓迎!!
開催日：7月4日(土)午前10時30分~正午
会場：鉄の展示館隣接コミュニティセンター

金賞第3席	玉置 城二	金賞第3席	根津 啓	銀賞第2席	森井 敦夫
金賞第4席	藤川 二朗	金賞第2席	明珍 裕介	銀賞第1席	森 隆浩
金賞第5席	秋田 勇喜	金賞第1席	月山 一郎	(鞘塗り)	小山 光秀
銀賞第1席	相良 雄一	協会の長賞	河内 一平	(白鞘)	森 隆浩
銀賞第2席	水田 吉政	長野県知事賞	上山 陽三	協会の長賞	森井 敦夫
銀賞第3席	森井 鐵太郎	金賞第2席	久保 善博	金賞第2席	古川 和幸
銀賞第4席	本阿彌 毅	銀賞第1席	佐々木 直彦	銀賞第1席	古川 和幸
銅賞第1席	小川 和比古	銅賞第1席	松川 隆	協会の長賞	森井 敦夫
銅賞第2席	関山 和進	銅賞第2席	松川 隆	金賞第2席	森井 敦夫
銅賞第3席	菅野 聖也	銅賞第3席	松川 隆	銀賞第1席	森井 敦夫
銅賞第4席	渡部 恒継	銅賞第4席	松川 隆	協会の長賞	森井 敦夫
銅賞第5席	横山 智庸	銅賞第5席	松川 隆	金賞第2席	森井 敦夫
協会の長賞	根津 啓	協会の長賞	松川 隆	銀賞第1席	森井 敦夫
経済産業大臣賞	根津 啓	協会の長賞	松川 隆	協会の長賞	森井 敦夫
協会の長賞	根津 啓	協会の長賞	松川 隆	協会の長賞	森井 敦夫
協会の長賞	根津 啓	協会の長賞	松川 隆	協会の長賞	森井 敦夫

平成二十七年「新作名刀展」

高松宮記念賞効果か、出品数三割増

夏到来と言いたくなるような気持ちの良いお天気に恵まれた四月二十八日、私は公益財団法人日本美術刀剣保存協会に伺い、「新作名刀展」表彰式を取材してきました。会場の刀剣博物館四階講堂には、受賞者のほか、小野裕会長をはじめ理事・審査員、関係者の方々が集い、表彰式は午後一時より厳粛に執り行われました。本年度より高松宮記念賞の交付が再開されたことも手伝って、総出品数は昨年の三十パーセント増との報告もあり、近年になく賑やかな授賞式だったように思います。

まず、小野会長より開会の挨拶を兼ね、伝統技術の保護と普及・啓蒙という公益活動の下に行う新作刀展であることの意義について説明がありました。

続いて、入賞者の表彰が執り行われました。作刀の部では、太刀を出品した久保善博さんが高松宮記念賞を、刀を出品した高橋祐哉さんと剣を出品した加藤政也さんが、彫金の部で山下秀文さんがそれぞれ日本美術刀剣保存協会会長賞を受賞しました。さらに、作刀

の部と彫金の部で薫山賞と寒山賞が授与され、続いて優秀賞、努力賞、新人賞、入選の表彰が行われました。

この後、審査員より講評が行われました。

作刀部門の吉原義人審査員は、地鉄は疵や欠点がなく大変良いものが多かった。形も重要である。長さに比して太さは適当である。か、反りは少なすぎないか、注意してほしい。裸焼きと言って、焼入れ時に土置きせず、刀から出る泡によって刃文を表した作品があったが、これは作者自身の感性を表現しているものと言いはる。今後は古作の景光・兼光・一文字のように、見て誰が作ったかわかるような作品を作してほしい、と述べられました。

刀身彫の部では柳村重信審査員が欠席のため、飯田俊久学芸部長が代読されました。彫刻は大きさを含めて配置とバランスが重要である。刀身彫の材料となる刀身が高価なためであるか、出品数が少なかつたことは残念である。刀匠の自身彫の出品も期待されるなどの指摘がありました。

彫金の部では萩原守審査員が、古作を見て写すなど伝統手法を学ぶことで、品格と良識を兼ね備えた自流を確立して、人々の心を打つ名品を作ってください。無鑑査作品に追いつけ追い越せの気力で、一層の精進を願う、と講評されていました。

最後に、受賞者を代表して高松宮記念賞の久保刀匠から、審査に関わられた方々へのお礼と併せ、刀剣文化が世界遺産に登録されるなど将来の発展を願うとの答辞が述べ



「新作名刀展」授賞式風景

られました。私は、昨年に引き続き新作名刀展表彰式に出席させていただきました。主催者として刀職者が連携を深め、刀剣文化の継承に尽力されていることに、取材を重ねる度に感動させられます。世界に誇れる私たちの日本刀を、私たちが大切にしたいと願っています。私たちが刀剣関係者の切なる願いであり、刀職者の皆さんに敬意を払いつつ、これからも高らかに声援を贈っていきたく思います。

- ◆**作刀の部**
 (太刀・刀・脇差・薙刀・槍の部)
 (高松宮記念賞) 久保善博
 (日本美術刀剣保存協会会長賞) 高橋祐哉
 (薫山賞・新人賞) 金田達吉
 (寒山賞一席) 高見一良
 (寒山賞二席) 上畠 誠
 (優秀賞) 北川哲士 木村光宏 小宮早陽光
 (努力賞) 小宮治氣 新保基治
 曾根 寛 宮下 輝 山下浩郎
 (努力賞・新人賞) 山副公輔
 (短刀・剣の部)
 (日本美術刀剣保存協会会長賞) 加藤政也
 (優秀賞) 新保基治 水木良一
 (努力賞) 安藤祐介
 ◆**刀身彫の部**
 (優秀賞) 柏木幸治
 (努力賞) 入江万里 片山 恒
 ◆**彫金の部**
 (日本美術刀剣保存協会会長賞) 山下秀文
 (薫山賞) 川島義之
 (努力賞) 伊東桂子 上野宏樹
 片山 恒 鈴木 康 高橋正樹
 武田守夫 福興裕毅 山口石根
 (生野正)

刀剣・小道具・甲冑武具
飯田高遠堂
 代表取締役 飯田 慶久
 〒161-0033
 東京都新宿区下落合3-17-33
 TEL 03-3951-3312
 FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
 〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
 TEL 04-7122-1122
 FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
 日本の伝統文化を彩る
 JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
 伊波賢一 Ken-ichi Inami
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
 TEL 03-3434-4321
 FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**
 〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
 松崎煎餅ビル4階
 (株)銀座泰文堂 代表 川島 貴敏
 TEL 03-3563-2551
 FAX 03-3563-2553
 フリーダイヤル 0120-402037
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
 古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
 連絡先 090-8845-2222
 代表者 高島 吉童
 東京都北区滝野川7-16-6
 TEL 03-5394-1118
 FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp



明治5年以來の歴史を持つ東京国立博物館の本館

東京国立博物館は上野の森の一角にある。JR上野駅から徒歩で七、八分、循環バスで公園口より二、三分、鶯谷駅からは徒歩で五、六分のところにある。約三万六千坪の広大な敷地の中、中央に本館、右手に東洋館、左奥に平成館などが立ち並んでいる。正門から二百メートルほどのところに城のような、要塞のような趣でドーンとそびえる建物がある。今から七十七年前の昭和十三年に東京帝室博物館復興本館として開館した。この中に日本の美術工芸のあらゆる分野を網羅し、しかも最高のレベルを誇る品々が展示・保管されている。日本刀の展示室は、一階正面を右に向かい、突き当たりを左に曲がった奥の五千坪ほどのスペースである。大きなおのおのケースの中に、十二振の名刀がゆったりと展示されている。鐔や目貫、三所物などは二ケースに収まっている。展示品はどれを取っても超一級品ばかりだ。名物三日月宗近、名物観世正宗、金象嵌銘の城和泉守所

旅のつれづれに 1

那須与一伝承館を訪ねて

祇園精舎の鐘の声
諸行無常の響きあり
沙羅双樹の花の色
盛者必衰の理をあらわす

「平家物語」の一節であるが、その中でもハイライトシーンが、源平の屋島合戦での那須与一が演じる「扇の的」であろう。新聞の地方版で、那須の麓の大田原市に「那須与一伝承館」なるものができたことを知った。展示物に、与一が扇の的を射た際に佩



510 東京国立博物館

上野のトータルは名刀の宝庫

用していたとされる太刀「成高」があるという。ほかに、那須家に伝わった貴重な資料が七百点以上収蔵されている。なかなか訪れる機会がなかったが、先般、南東北へ小旅行をした際、最初に立ち寄った。太刀成高に期待を膨らませ入館したが、最初に見せられたのは琵琶のBGMに乗せて、最新式のかくり人形による屋島合戦の再現である。これを見終えて展示室に入ると

あった！成高が。太刀拵もある。しかしである。失礼ながら、光線の具合が悪い。食い入るように見ても、刀身の細かいところは見えない。それでも、刃長七九・八cm、反り三・二cmの豪壮さと優美さは伝わってくる。この成高は重要文化財に指定されており、平安末期から鎌倉初期にかけての古備前派の刀工とされている。

持正宗、名物亀甲貞宗、小童貫光、大般若長光、名物大包平、名物童子切安綱等々、愛刀家にとっては一度は拝見したい名刀ぞろいだ。日本刀は国内に約二百三十万振現存するが、国宝に指定されているものは百二十点しかない。そのうち、ここ東京国立博物館には国宝の所蔵品が十七点、社寺寄託品が六点あるから、刀剣の国宝の四分の一があることになる。重要文化財の指定品四十振前後を加え

伝えており、当初の刀と拵がそろって伝来し、平安時代の様式をそのまま伝える点で貴重である。私が子供のころ、与一の幼少時からの弓伝説を聞かされた記憶がある。また、与一は美男子の代名詞的存在で、それにまつわるエピソードもたくさん残っている。ところが、残念なことに「扇の的」以降のことについては全くと言っていいほどわかっていない。それがまた多くの人の想像力をかき立て、与一にまつわるさまざまな伝説・伝承を生み出すことになったのかもしれない。(赤荻稔)

■那須与一伝承館 〒324-0012 栃木県大田原市南金丸一五八四一六 ☎〇二八七二〇二〇二〇



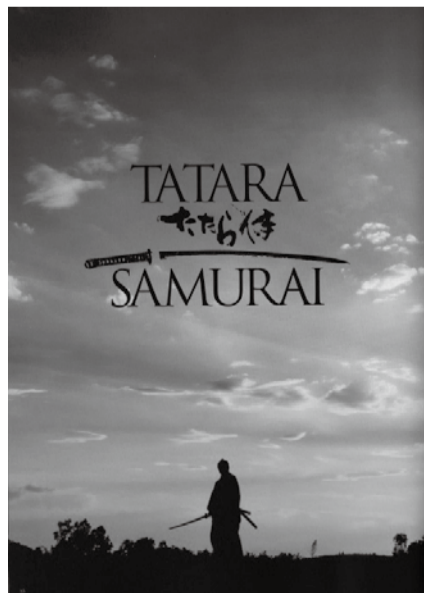
「那須与一の郷」の中核施設である伝承館

東京国立博物館所蔵国宝刀剣類

太刀	銘	三条(名物三日月宗近)	平安時代
太刀	銘	定利	鎌倉時代
太刀	銘	来国光	嘉暦二年二月日 鎌倉時代
短刀	銘	吉光(名物厚藤四郎)	鎌倉時代
短刀	銘	行光	鎌倉時代
刀	無銘	正宗(名物観世正宗)	鎌倉時代
刀	金象嵌銘	城和泉守所持	正宗磨上 本阿(花押) 鎌倉時代
刀	無銘	貞宗(名物亀甲貞宗)	鎌倉時代
太刀	銘	備前国友成作	平安時代
太刀	銘	長光(大般若長光)	鎌倉時代
太刀	銘	長光	鎌倉時代
太刀	銘	備前国長船住景光	元亨二年五月日(小龍景光) 鎌倉時代
太刀	銘	助真	鎌倉時代
太刀	銘	吉房	鎌倉時代
太刀	銘	吉房	鎌倉時代
太刀	銘	備前国包平作(名物大包平)	平安時代
太刀	銘	安綱(名物童子切安綱)	平安時代
群馬文兵衛鎖太刀 鎌倉時代			
梨地螺鈿金装筋劔 平安時代			

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
株城南堂古美術店
代表
田中勝憲
〒153-10051
東京都目黒区上目黒四一三一〇
TEL 〇三三三七〇一六七七六
〇九〇三三〇八一九六一二
FAX 〇三三三七〇一六七七七

細部が見えにくかったが、今は大型のスポットライトが付けられ、改善されている。地鉄や刃文、帽子なども観察できる。名刀を真剣に鑑賞すると、非常に疲れる。幸い、ここには壁側にソファが置いてある。一休みして、また鑑賞するとよい。二階の武器・武具類の展示室も見学してほしい。ここには甲冑類や拵などが展示されている。展示替えは三ヶ月に一度行われている。詳しくはホームページで確認の上、楽しんでいただきたい。(冥吉也)



「たたら侍」パンフレットより

NEWS & TOPICS
EXILEで映画「たたら侍」を制作
あの人気ダンス&ボーカルユニットEXILE(エグザイル)のリーダーHIRO(ヒロ)さんがエグゼクティブプロデューサーで、劇団EXILEの青柳翔さんが主演を務める映画「たたら侍」の撮影が進んでいます。キャストとしてほかに、AKIRAさん、NAOKIさんも出演します。「たたら侍」は、武士道と日本刀を誇りとするのが真の侍の証とされ、また誇りであることをテーマとした映画です。監督は「RAWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語」で平成二十二年映画祭「金の太陽賞(グランプリ)」を受賞した錦織良成氏。錦織監督は映画の舞台でもある島根県出雲市出身。封切は来年五月予定。物語は奥出雲にある「日刀保たたら」の現場ドキュメンタリー映像から始まり、中世戦国時代にさかのぼります。侍になることを夢見て村を出た村下の長男伍介(青柳翔)は、旅を続けるうち日本刀のすばさに気づき、たたら吹きを究めて玉鋼を生み出す心に「侍の魂が宿っていることを悟ります。そして玉鋼を伝承する男「たたら侍」になります。」その「たたら侍」は、現代のたたら吹き現場にも脈々と受け継がれていると訴えかけます。今回、「たたら侍」プロジェクト

トチームでは、その前哨作品として、日本刀をテーマとしたたたら操業の記録映像を公益財団法人日本美術刀剣保存協会(小野裕会長)監修の下で制作し、内外に発信する予定です。EXILEが日本を誇りに思えるような時代劇作りに挑戦するというこの「たたら侍」は、若い世代が日本刀に興味を持つ良いきっかけになるに違いありません。「新たな本筋の愛刀家を育てなければならぬ」(小野会長)と語る協会の厚い支援もあるこのチャンスに、われわれ刀剣商組合も生かしていきたいものです。(松本義行)



日刀保を訪れた映画スタッフら

シヨウちゃんの健脚商売

江ノ島編

ツール・ド・フランスという世界最大の自転車ロードレースを、ご存じだろうか。

フランスの国営放送が届ける映像は、オートバイの後部座席のカメラマンが捉える苦しみに歪む選手の手表情が迫力で知られるが、もう一つの売りはヘリコプターからの映像だ。自転車選手たちが集団で走る様子を空から捉えるそれは、チームを作って飛来する渡り鳥たちのように見える。実は鳥たち同様、先頭以外は集団全体の風の流れに乗り、一人で漕ぐより楽で速く移動が可能で、多くの場合、チーム、成績などを二の次にし、苦しい先頭を順次交代しゴー

ルへと向かっていく。つまりゴール前一キロメートル地点までは助け合いのスポーツなのだ。アマチュアレースでもこの風の団に初めて入ったビギナーサーは、渡り鳥になった気分がロードレースに取りつかれていくという。

今年の一月十一日、俺はサイクリング仲間九人と江の島サイクリングを計画していた。そしてその日の夕方は、靖国神社での実演を終えた現代刀匠の下島房由氏・石田四郎国壽氏らと飲み会という楽しみみの二毛作。はてたフリを自分以外の九人をジャンジャン前に出し、自分は追い風で乗をしよう。



湘南モノレール湘南江ノ島駅で濱崎さんと

うというチャッカリ作戦(前置きのツールの出場選手にはそんなひどい奴はいない)。しかも昼食を取る江の島の食堂に当組合事務局の濱崎道代さんと呼び出し、『刀剣界』の取材をするという、俺のために世界があるような一日となるはずだった。

しかし、自転車の神様はそんな俺を許さなかった。当日の明け方に三十七度の熱を出し、俺は全部を断念したのだ。

二月二十八日、俺は銀座で研師の小川和比古氏らと会った後、一人で濱崎道代さんに会い江の島に自転車車向かった。ソロで走るのは苦しさ三割増しほどだろうか。

大盛況でした。一期会で百本切ったこともたびたびありました。そのころは受付を担当しましたが、目の回るような忙しさで、終了後の会計処理も大変でした。

その後、短刀小品展はお守り刀展に発展し、岡山の備前長船刀剣博物館で開催するようになり、大刀剣市の銘切り実演は刀匠会関東支部が主体で行うことになりました。今では意欲的な若手刀匠が運営の中心となり、開催ごとに手慣れてきて、誠に頼もしい限りです。

お客さまの注文の中には、私には手に負えないアニメのキャラクターや名前などもあり、そんなときは若手に助けてもらったり、海外からのお客さまに対応してもらったりと、助かっています。

今では最盛期の売り上げには到底及びませんが、それでも手ごろな価格の小物などが売れ切ってしまうことがありません。次回もこんなものが売れるかもしれないと思って仕込んだ作品がズバリ売れた

アシストでできるわけもないが、甘えすぎは禁物だな。そんな彼女の土曜日の昼下りの過ごし方は、何とヨガ。フィットネススタジオに向かっ行っていく濱崎道代さんは、どこまでも湘南のセレブな奥様であった。

旧友の菊一純平氏の菊一伊助商店に立ち寄ったので、帰りは北鎌倉の十パーセントの上り坂に襲われた。明日は筋肉痛か？

若者広場

山下浩郎(刀匠)

「大刀剣市」の銘切りコーナーは 絶好の出会いの場

私が「大刀剣市」の現代刀匠銘切り実演コーナーに参加することになったのは、「短刀小品展」への出品がきっかけです。

私も小品を出品していたので、足手まといにならないようにお手伝いをさせていたたくことにしました。あのころは広いスペースを提供してもらい、たくさん作品を展示していました。ゆっくり見ただけのように、休憩用の椅子も置いてありました。

会場に立って、お客さまへの説明と案内だけでもいい。せつかく全国から有名刀匠が来ているのだから、喜ばれて、少しは全日本刀匠会の財政の足しになればと、文鎮などへの銘切り実演が始まりました。

作品を買わなければ頼めないような刀匠に、少しの金額で好きな言葉や絵などを切ってもらえるようになって

一筆啓上
大刀剣市の現代刀匠コーナーで愛嬌のある笑顔で誰にでもわかりやすく説明するあの人が、今回の若者広場に登場となった。そう、若者と言うには少々トウが立った印象となる山下浩郎さん(刀匠銘「浩」)だ。今までのコーナーに登場してもらった若手刀匠の兄貴分と言って差し支えないだろう。

氏との出会いはかなり古いものとなる。葛飾区高砂の吉原義人刀匠の日本刀鍛錬道場で日刀保東京支部の見学会があった時のこと、義人刀

匠の火造りと、子息の義一刀匠の焼入れを見学させてもらった。かわいがいしく細かい説明やお茶出しを笑顔でしてくれた青年が、この山下さんだった。あれは何年前のことだろうか。

私が「大刀剣市」の現代刀匠銘切り実演コーナーに参加することになったのは、「短刀小品展」への出品がきっかけです。

私も小品を出品していたので、足手まといにならないようにお手伝いをさせていたたくことにしました。あのころは広いスペースを提供してもらい、たくさん作品を展示していました。ゆっくり見ただけのように、休憩用の椅子も置いてありました。

会場に立って、お客さまへの説明と案内だけでもいい。せつかく全国から有名刀匠が来ているのだから、喜ばれて、少しは全日本刀匠会の財政の足しになればと、文鎮などへの銘切り実演が始まりました。

作品を買わなければ頼めないような刀匠に、少しの金額で好きな言葉や絵などを切ってもらえるようになって

一筆啓上
大刀剣市の現代刀匠コーナーで愛嬌のある笑顔で誰にでもわかりやすく説明するあの人が、今回の若者広場に登場となった。そう、若者と言うには少々トウが立った印象となる山下浩郎さん(刀匠銘「浩」)だ。今までのコーナーに登場してもらった若手刀匠の兄貴分と言って差し支えないだろう。

氏との出会いはかなり古いものとなる。葛飾区高砂の吉原義人刀匠の日本刀鍛錬道場で日刀保東京支部の見学会があった時のこと、義人刀

匠の火造りと、子息の義一刀匠の焼入れを見学させてもらった。かわいがいしく細かい説明やお茶出しを笑顔でしてくれた青年が、この山下さんだった。あれは何年前のことだろうか。



作品を買わなければ頼めないような刀匠に、少しの金額で好きな言葉や絵などを切ってもらえるようになって

一筆啓上
大刀剣市の現代刀匠コーナーで愛嬌のある笑顔で誰にでもわかりやすく説明するあの人が、今回の若者広場に登場となった。そう、若者と言うには少々トウが立った印象となる山下浩郎さん(刀匠銘「浩」)だ。今までのコーナーに登場してもらった若手刀匠の兄貴分と言って差し支えないだろう。

氏との出会いはかなり古いものとなる。葛飾区高砂の吉原義人刀匠の日本刀鍛錬道場で日刀保東京支部の見学会があった時のこと、義人刀

匠の火造りと、子息の義一刀匠の焼入れを見学させてもらった。かわいがいしく細かい説明やお茶出しを笑顔でしてくれた青年が、この山下さんだった。あれは何年前のことだろうか。

徳川家ゆかりの貴重な品々が一堂に会するだけでなく、最新のデジタル技術を活用し、老若男女を問わず楽しめる展示になっている点が印象的であった。

長い冬が終わり、最も快適なこの季節、徳川家康公ゆかりの地・日光へ出かけてみてはいかがでしょう。



オープンした日光東照宮宝物館

NEWS & TOPICS

日光東照宮に新宝物館がオープン

三月十三日にオープンしたばかりの日光東照宮宝物館を訪れ、「徳川家康と日光東照宮展」(五月三十一日)を見学した。

味ではあるが家康公のこだわりが感じられ、まさに「いい仕事してますね」と決めゼリフを言いたくなる見事な梅であった。

この助真が四十七年ぶりに家康公の眠る日光へ里帰りしたと思うと、感慨もひとしおである。

同館には、ほかに家康公が関ヶ原の戦いで着用したとされる南蛮胴具足をはじめ、約三百年前の寛永の大造替に製作されたと思われる神輿などが展示されている。

五月からは二代将軍・秀忠公甲冑「特別展示会」として、英国ロイヤル・アーメリアーズ博物館に所蔵されている秀忠公所用の甲冑が展示されることになっている。

これは、友好の証として、秀忠公よりイングランド国王ジェームス一世に贈られたものである。日英友好の歴史が詰まったこの企画展も、ぜひ見てみたい。

日光東照宮宝物館 2321-1 431 栃木県日光市内山内三〇一 〇二八八五四一三五八

徳川家ゆかりの貴重な品々が一堂に会するだけでなく、最新のデジタル技術を活用し、老若男女を問わず楽しめる展示になっている点が印象的であった。

その中でも注目すべきなのが、東京国立博物館から四十七年ぶりに里帰った国宝の太刀助真、同じく国宝の太刀国宗、重要文化財の太刀吉房である。それぞれ名刀に違いないが、特に助真は「日光助真」と号され、有名である。家康公遺愛の一振りで、加藤清正から献上されたことが「駿府御分物刀助元帳」に記されている。

私は朝氣に富む助真を目の前に、しばし時間を忘れて、見入ってしまった。

家康公の注文に応じて製作された黒漆塗打刀拵も付属して、一見すると地

味ではあるが家康公のこだわりが感じられ、まさに「いい仕事してますね」と決めゼリフを言いたくなる見事な梅であった。

ブック・レビュー BOOK REVIEW

八十年前に書かれた刀の本格エピソード集

『怪談と名刀』 本堂平四郎著 東雅夫編

定価(本体五九三円十税) 双葉社

この本は『怪談と名刀』という... 親交を結び、辛亥革命を陰ながら支援したとする逸話も伝えられている。

大正八年、依願退職して一転、実業界に身を投じてからは、さまざまな事業に手を染めることになったのだが、関東大震災などの不運もあり、同十五年に撤退を余儀なくされている。

これ以後、平四郎は実業界の第一線から身を引いて、趣味の刀剣研究や文筆を中心とした生活をする。『怪談と名刀』の元になった連載が、大正十五年に『刀剣と歴史』誌上で始まっている。平四郎は、同誌発行の母体である刀剣保存会の幹事にも名を連ねているのである。

『怪談と名刀』は、怪談をメインテーマとする東雅夫というアンソリストによって復刊されたものではあるが、実は昨今、刀剣関係の本が新たに発行されたり、増刷されたりしている事情も見逃すわけにはいかない。

『怪談と名刀』は、怪談をメインテーマとする東雅夫というアンソリストによって復刊されたものではあるが、実は昨今、刀剣関係の本が新たに発行されたり、増刷されたりしている事情も見逃すわけにはいかない。

とりわけ赤坂警察署長時代には乃木希典陸軍大将夫妻が明治天皇崩御に当たり殉死を遂げた際、検視の陣頭指揮を執った、当時、関東一円に名を馳せたスリの



私が出会った珍品・優品

大平将広

刀 (切付銘)

莊司次郎太郎藤原直勝男弥門直諒謹誌 先人直勝嘗応磯野君寿需殿一口刀刀成 未勒名而為隔世人因代勒先人名云

長さ二尺一寸五分強 反り四分半

一昨年の十月、来店買取希望の電話が入る。 「軍刀なんです、見てもらえないでしょうか」

もちろん二つ返事で引き受け。 錆身だと言う。 内心、どうせ九八式か何かに入った、登録も今じゃ付かないような刀では、と高をくくっていた。

「来店いただき、拝見する。袋から刀を出し、昭和二十七年の古い登録証を確認する。 隙間なく小さな字で書かれた銘文に戸惑う。 まずはモノを見てみよう。」

白鞘はなく、佐・尉官略式刀緒付き野戦革覆いのサーベル型軍刀 拵に刀身が収まっている。 ところどころ錆びていたが、小板目詰んだ無地風に互の目・尖り刃が連れた、軍刀拵によく収まっている類の刀かという印象。 茎を抜くと細整で長文の切付銘がある。 一部に次郎太郎直勝とあり、予想に反した著名刀工の名に驚く。

お客さまと相談の結果、無鑑だ



く、昭和五十五年七月の『名刀図鑑』において藤代松雄氏は、銘鑑には「二代弥門直勝の初銘は直好、三代直勝の初銘も莊司弥門直諒(ナオヨシ)」とあるが、この二代、三代は同一の刀工が誤り伝えられたように思われると唱え、その論を裏証するものとして「次郎太郎直勝作依無銘男直諒銘ス」と記された安政六年(一八五九)の刀の押形を掲げている。

本作は藤代氏の説を補強するものとなり、それぞれの刀工の没年月日、他の現存する年紀入りの直諒銘の作品から推察するに、次郎太郎直勝の二代目の弥門直勝は初銘を直好、または直諒とし、三代目は存在しないと考えるのが妥当である。(詳しくは『刀剣美術』平成二十六年六月号を参照のこと)

刀剣史において、新々刀といえどいまだ不明瞭であった部分が解明されていくのを目の当たりにできたことは非常に貴重な経験であり、感動的だった。

後日、無事商談成立となり、買い取った後、鑑定・研磨・白鞘などの手をかけた。

今年に入ってから、訳あって刀身のみ市場にて売却。 切付銘であること、また、いわゆる代作代銘の類と見られ、思うところまでいかず原価割れとなった。

軍刀拵の中にもこのような珍品が埋まっていること、また珍品ならではの商売の難しさを感じさせられた刀だった。

続・ポーランド訪問記

公益法人日本刀文化振興協会 専務理事 宮人小左衛門行平

研師阿部一紀氏による本紙第十五号の「ポーランド訪問記」は、綿密な報告と多少の旅情も交わって、広い見識を持ついかにも氏らしいものであった。

一昨年の訪問は、残念ながら私は参加できなかったが、阿部氏には同行できなかったが、阿部氏には参加を強く勧めた。これまで日本刀文化振興協会が実施してきた文化庁助成事業における講座や日本刀調査などで中心的役割を担っていた阿部氏の経験は、訪問の目的に適切、必ずや成果を上げると思っただけである。調査の内容は、現状と必要な修理内容的に記されており、今後の交流に欠かせない資料となっていた。

偶然ではあるが昨年、本年三月と、二度ポーランドを訪れる機会を得た。 昨年は全く私的な渡航であったが、先の訪問団の中心的存在であった中国電力・白髭修一氏よりポーランド日本刀部会長ヤツェク氏に伝わり、滞在中に開催された同会の会合に招待された。 その際、二人の新入会員への会員証の授与と、その二人によるプレゼンテーションが行われた。内容はそれぞれ「銃刀法」と「押形の手法とその効用」と題し、驚くほど入念な調査に基づくもので、

初めてポーランドを旅した三十年ほど前のこと、友人になった大学生の家に泊めてもらい、物資が決して豊富ではない社会主義体制下、いつもおいしい食事をいただくなど、彼と両親から多くの親切を受けた。そして毎日コンサートに通い、大好きな音楽をたっぷり堪能した夢のような日々を、三十年ぶりに再会した友人とともに振り返ることができた。 彼のおかげでポーランド国民が日本を大好きなことも知った。

ポーランドと私の間にある縁と恩をかたचितしと思いついて、



ポーランド軍事博物館にて講演する筆者

交換会紹介 東京美術刀剣商業協同組合市場 拠点は新橋。プラザビル14階

東京美術刀剣商業協同組合市場という名に一瞬ピンと来ない方もいるかもしれませんが、東京・港区新橋にて昭和二十七年に登記、市場鑑札を取得し運営されている交換会市場です。

刀剣登録証発行が昭和二十六年(一部特例を除く)、大戦後のサンフランシスコ講和条約調印の年に始まり、同条約は翌二十七年に発効して正式に日本の独立となるので、ともに六十三年の年月を経過



交換会風景

している長寿市場です。

戦後の美術品取引の中、特に刀剣所持に関わる登録制度が導入されて間もなく、業界の地位向上、正式な流通過程の確立の必要性を痛感し、東京を活動拠点とする先人たちが、協同組合という中にその姿を築いたと言えましょう。市場申請が伊波寛次郎だったのは、設立メンバーの中で公の交渉事に向いていいたからだったようで、飯田国太郎氏、服部栄治氏ら多くの協力者が結集したたまたまだったそうです(伊波徳元理事長談)。

刀剣流通の場として確立される一方、組合組織として早くから警視庁の協力団体「東京都古物商防犯協力会連合会」(東古連)に加え、今も各古物取り扱い業種(宝石・古書・自動車など)との情報交換もしています。

長い歴史の中で、いろいろなことがありました。まず組合事務所と会場は、新橋四丁目にある約十五坪、一階に人が住む木造二階建ての二階に間借りし、後に購入しています。服部暁治さんのお父上の親族もその管理に関わっていたと聞くと、驚きの歴史です。



虎ノ門ヒルズ方面から見た会場

バブル期には、周辺の地上げによる地価高騰で、資産評価に一喜一憂。長年計画が凍結されていた環状二号线(俗称マッカーサー通り)再開計画が開始すると、約三年の移転を迫られました。その間、会場は東京美術倶楽部を借り、略称「東刀会」として市場を継続開催していました。また、それに伴う税務対応と周辺事情の変遷にもまねながら、現在は再開による地権者が多く入居する「新橋プラザビル」に約三十坪のスペースを取得。同ビル完成前から、毎月の管理組合設立委員会に委員

として出席し、建築全般や管理規約作成などに関わり、現在は同管理組合で監査を務めています。移転当時から現在まで、温厚実直なお人柄で知られる菅原泰明理事長のご活躍も、当組合の運営に加え、同ビルとの円滑な関係を築いている理由でしょう。

以前の同組合総会で、先人たちの遺志を継ぎ、同地を業界のために有効利用する、と決議され、新橋駅から至近のスペースはいくつかの市場に貸し会場として利用され現在に至っており、ご存じの方も多いと思います。

また、内装にスポットライトレールを付け、会議や勉強会にも対応できるようにしており、利用を受け付けています。新しい環状道路を眼下に眺めるロケーションも、なかなかです。



土肥 富康

「久保田」「朝日山」と聞いてピンと来る人もいるでしょう。毎日晩酌をしている方でしょうか。そんな皆さんに、わが新潟の蔵元、朝日酒造をご紹介します。



壮大な朝日酒造の酒蔵

朝日酒造は天保元年(一八三〇)、現在の蔵元がある新潟県長岡市の広大な土地に久保田屋という屋号で酒造業を始めます。朝日というのは地名で、ここは寒暖の差が大きく、おいしい米が育つのに最適な気候な土地だったのです。大正九年に朝日酒造株式会社を設立し、昭和六十年に「久保田」の販売を始めます。久保田の名前は昔の屋号だったのです。さらに平成十二年には「越州」を発売。ロングセラーもありますが、現在も季節限定のお酒を造り、美味しいお酒造りの研究に余念がありません。

朝日酒造の従業員は百八十人ほどで、そのうち八十人は製造スタッフです。その八十人で年間約四万石、一升瓶に換算すると四百万本を生産しています。

瓶詰めは人の手を必要とせず、しかも一時間に一升瓶四千本もこなします。人の手を必要としないのは、清潔で安全な商品をお客さまに届けるためでもあるのです。酒の仕込みは杜氏さんの職人技という側面が強いのですが、機械を導入することで、より良い品質で私たちの元へ届くわけです。

朝日酒造は、地元の人、地元の水、地元のお米によって酒を造るといって、高級酒だけではなく、皆が楽しく飲める普通のお酒のレベルを引き上げ、値段は高くなっても

予約すれば酒蔵見学で製造工程を見ることができ、また予約がなくても、びん詰め工程の見学ができます。朝日酒造の敷地内には、酒粕を使った料理やへぎ蕎麦を出してくれる蛸庵という料理屋もあり、お酒を飲みながら味わえます。帰りはお酒はもちろん米、酒、酒粕、麴などを使った酒の肴やお菓子なども販売している売店もあり充実しているので、お土産には困りません。

朝日酒造のすぐ裏には紅葉園といい、名前の通り秋には紅葉で見事に赤く染まります。その秋口に紅葉狩りを兼ねて新潟の酒蔵を訪れてみてはいかがでしょうか。

刀剣商リレー訪問20

濱崎 善弘さん

お客さまの舵取り役で四十年

今回紹介するのは、兵庫県尼崎市で店舗を構え、長く営業しておられる濱崎善弘(はまさき・よしひろ)さんです。

昭和十九年生まれで、古美術の世界に四十年以上携わっておられるとのこと。扱うのは刀剣・甲冑だけでなく、茶道具・書画・貨幣・骨董など、多岐にわたっています。

全国刀剣商業協同組合には百八十名の会員がいますが、営業基盤を首都圏にしている方が大半です。その経済規模に比し、組合員が少ないのが関西圏です。現在十名ほどのようです。大阪には当組合発足以前に、大阪府公安委員会認可の大阪美術刀剣業組合が創設されており、関西の刀屋さんたちが結束して活動していましたので、関連業者が少ないという理由だけではないようです。

その関西で濱崎さんは、博物館学芸員、大阪美術刀剣業組合理事など数々の公職をこなし、関東へ



濱崎善弘さん

の出張も多い中、刀剣をはじめ古美術品の普及に尽力されています。ふくよかな体型で温厚な雰囲気から、古美術業者というより、愛好家というイメージの濱崎さん。若いころは柔道を、近年は茶道や書道をたしなむ趣味人でもありません。ここでご本人のコメント。

「私は古物商許可証を昭和四十一年に取得しました。そして十年後に兵庫県の一番東の尼崎で独立開業し、現在に至っています。地下を倉庫に、一・二階を店舗として、刀剣を主に、茶道具・焼き物・掛け軸などを扱っています。間もなく、趣味の「日」を設けて、ちょっと目先を変えた店づくりもしていきたいと思っています。

自分がいとも思っていて、お客さまに言っていることがあります。古美術品はお金をかけて集めるものでなく、筋の通っているもの、自分自身の気持ちに合ったものを探すこと。私はお客さまがいものを集めるための、舵取りの役目と思っています。」



有紀美術の店舗ビル

刀職紹介 第17回

〔研師〕枝松孝治さん



枝松孝治さんは昭和五十九年生まれの、現在三十歳。

十八歳のとき、岐阜県に行き、本阿弥流の研ぎを五年にわたって修業。その後、独立して地元宇都宮で開業。刀剣商や刀匠らの協力を得て、実力を蓄えています。

仕事を預かる際には、依頼してくださる方ときちんと話し合い、できるだけ要望に心えられるよう心がけているとのこと。特に刀剣の知識がない方から依頼があった場合には、取り扱いや鑑賞、手入れの仕方なども説明し、一層の関心を持ってもらえるような接客に努めておられます。

「限られた時間の中でできるだけのことをやる」をモットーに精進する毎日です。

研ぎ代は一寸八千円ですが、依頼内容や刀の状態によって変わることがありますので、相談してみてください。

刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ

紀伊国屋

代表 **松浦孝子**

〒372-10812
群馬県伊勢崎市連取町一八三六一
TEL 〇二七〇-二六〇七七八
FAX 〇二七〇-二六〇八七八

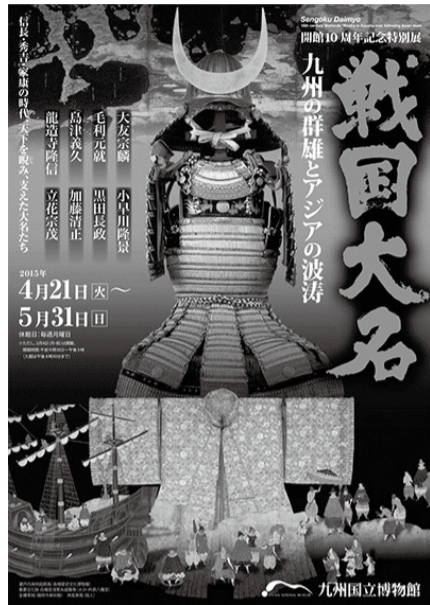
刀 剣 界

催事情報

九州国立博物館

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2 ☎092-918-2807
http://www.kyuhaku.jp/

九州国立博物館開館10周年記念特別展 「戦国大名—九州の群雄とアジアの波濤」



- ・戦国大名の争覇から豊臣大名の登場と消滅まで、戦国九州のクライマックスともいえるべき16世紀後半の激動の歴史が一望できます。
- ・アジアの海を媒介として華々しく展開された、戦国九州と中国・朝鮮・琉球・東南アジア・ヨーロッパとの海外交流の歴史がわかります。
- ・国宝「婦女遊楽図屏風」(松浦屏風)、「唐物茶入新田肩衝」など、

開館記念特別展「美の国 日本」を彩った珠玉の名品9件と再会できます。

- 〈構成〉
- 第1章 大友宗麟の栄光と挫折
 - 第2章 戦国九州を疾駆した大名たち
 - 第3章 九州の大名とアジアの海

会期：4月21日(火)～5月31日(日)、月曜休館。ただし5月4日(月・祝)は開館

〈同時開催〉

中世刀剣の美—ふくやま美術館寄託「小松コレクション」と九博の名刀—ふくやま美術館寄託の「小松コレクション」(登録美術品)は、「国宝太刀 銘筑州住左(江雪左文字)」をはじめ、国宝・重要文化財を多数含む国内有数の刀剣コレクションとして知られています。この度、ご所蔵者および寄託先であるふくやま美術館の全面的なご協力により、国宝7件、重要文化財5件の計12件を特別公開します。また、この公開に合わせて、九州国立博物館所蔵の「国宝 太刀 銘来国光」も展示の予定です。開館10周年を迎えた当館で初めての本格的な刀剣の特集展示にして、「九州初お目見え」となる小松コレクション。中世刀剣の美をぜひご堪能ください。

会期：5月19日(火)～6月28日(日)

出品作品リスト

国宝	太刀	銘	正恒(附梨地桐紋蒔絵糸巻太刀拵)
国宝	太刀	銘	国宗(附黒蠟色塗打刀拵)
国宝	太刀	銘	吉房(附 蠟色塗打刀拵)
国宝	太刀	銘	筑州住左(江雪左文字)(附黒漆研出鮫鞘打刀拵)
国宝	太刀	銘	則房
国宝	短刀	銘	左/筑州住(太閤左文字)
国宝	短刀	銘	国光(名物会津新藤五)
重要文化財	太刀	銘	国清
重要文化財	刀	無銘	伝来国光
重要文化財	太刀	銘	備州長船兼光/延文三年二月日
重要文化財	太刀	銘	備前国長船盛景
重要文化財	短刀	銘	光包
国宝	太刀	銘	来国光
	刀	無銘	光忠

徳川美術館

〒461-0023 愛知県名古屋市東区徳川町1017 ☎052-935-6262
http://www.tokugawa-art-museum.jp/

国宝 初音の調度—日本一の嫁入り道具—

千代姫は三代将軍家光の長女で、寛永16年(1639)、わずか数え年3歳で尾張徳川家二代光友にお嫁入りしました。千代姫の婚礼調度は、調度の意匠が『源氏物語』の「初音」の帖にちなんだ「初音の調度」が47件、同じく「胡蝶」の帖にちなんだ「胡蝶の調度」が10件、さらに染織品・金工品を加えた総計70件が現存し、一括で国宝に指定されています。

開館80周年を記念し、全点を一挙に公開いたします。

会期：4月11日(土)～5月31日(日)

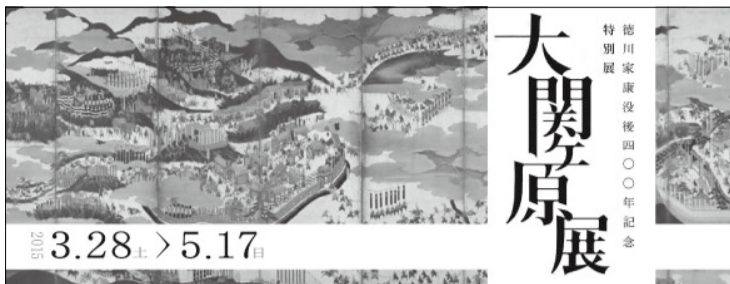
〈開催予告〉

徳川家康—天下人の遺産—

徳川美術館の収蔵品の骨格となる徳川家康の遺産は、江戸時代を通じて尾張徳川家第一の重宝として大切に守り伝えられました。徳川家康没後400年を記念し、尾張徳川家に伝来した家康の遺産「駿府御分物」「駿河御譲本」を通して、家康の生涯を

たどります。

会期：8月1日(土)～9月13日(日)



江戸東京博物館

武器・武具が物語る関ヶ原の戦

江戸東京博物館で「大関ヶ原展」(三月二十八日～五月十七日)を鑑賞してきた。関ヶ原の戦というものが、歴史上、戦史上、どういう意味を持つのかということに前面に出した展覧会でした。

プロローグ「描かれた戦場」、第一章「秀吉の死—再乱の予感」、第二章「合戦の前夜」、第三章「決戦!関ヶ原」、第四章「戦後の世界—天下人への道のり」、第五章「徳川家康の素顔」、エピローグ「家康の神格化」と、場面をよく押さえ、直江状をはじめとした書状の類も数多く、充実した内容なのですが、「刀剣界」の取材を兼ねる小生としては、刀剣類・武具類をしっかりと鑑賞してきました。

光の作と伝えられる。豊後大友家から足利将軍家、さらに松永久秀に移り、もう一度大友家に戻り、そこから豊臣秀吉に献上、大坂夏の陣で豊臣家が滅亡して徳川家の所有となり、明治維新を迎えて豊国神社が再建されると奉納され、今日に至る。



平成会熱海大会を開催

毎年この季節は、桜の満開に合わせたように春の風もまた恒例になっている。いざ満開となると、決まって寒の戻りもやってくる。平成会の大会は、毎年四月に熱海で開催されるが、天気が荒れるのも恒例である。熱海に向かう道すがら、少し葉桜になりかけた桜の木からひらひらと舞う花と、数日前の五月陽気から一転、二月に舞い戻ったような寒の戻りが、より強く季節の変化を印象づける。

四月十日、平成会熱海大会が定宿であるあたま石亭で盛大に執り行われた。昨年のレポートでも触れたが、平成会は前身の諏訪会創立から優に三十年以上を数える。創設時から堅実の理念を伝え、現在も変わることなく受け継がれている会である。会場には早くから名品が並び、午前十時、今年から代表に就任された高橋歳夫会長の挨拶で競りに入った。